

戦争遺跡を調査して
いる人に案内され、嬬恋村役場の西方にある
山林に入った。農道から斜面を少し下るとア
ーチ状のコンクリートが見えた。「大前防空監視哨」
の遺構である。周辺は樹木が生い茂るが、戦時中は眺望が開け、
空監視哨は本土に飛来する米軍機をいち早く察知するため全国
各地に設けられた。県内には約40カ所。訓練を受けた青少年が

24時間体制で警戒に当たり、音を聴き分けて敵機の機種や数を
通報した。終戦で役割を終え、建物は取り壊されて大半が失われた▼「県内に幾つ残っているのか」。自分の目で確かめたいと
調査するのが山口一俊さん(71)だ。3年ほど前から文献に当たり、図書館や史料館の職員、戦時中を知る人たちから話を聞き、報告書をまとめている▼大前防空監視哨は「嬬恋村誌」に記述があるもの

地元のお年寄りに絵を描いてもらったり、案内してもらったりして埋もれた遺構をようやく確認した▼山口さんは「任務に当たった人から直接話を聞くことができる時間は残りわずか。せば」と願う▼県内で文化財に指定された監視哨跡はみどり市と長野原町の2カ所のみで、存在を知る人も少なくなつた。終戦から78年。戦争体験者が減る中、戦禍の記憶をつなぐ戦争遺跡を調べる意義は高まつていて